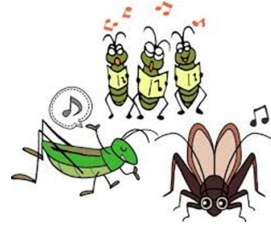


# 研究所だより

第420号  
2020年10月19日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“ あれ松虫が 鳴いている  
ちんちろ ちんちろ ちんちろりん  
あれ鈴虫も 鳴きだした  
りんりん りんりん りいんりん  
秋の夜長を 鳴き通す ああ おもしろい 虫のこえ ”



『 虫のこえ 』 1912 (明治45) 年 文部省唱歌

## ～収穫の秋・紅葉の秋～

朝晩の肌寒さに深まる秋を感じるようになりました。暦の上では8日は“寒露”、「野草に冷たい露が宿る」という意味です。この頃は、秋も深まって山では紅葉も色づき始めると言われています。吹く風や周りの景色は着実に秋色に変わりつつあります。

季節の変わり目ですので、健康にはくれぐれもご注意ください。

## 学級を予防的に見る 特別編

(教育ジャーナル2020年度 Vol.4) から

村上仁志 教諭 (大阪市立みどり小学校)

### 「できない」からの悪循環を捉え直す

例年、秋は様々な行事が行われます。先生方は、そうした行事を通じて、ふだんの授業だけでは見えてこない子供たちの良さを発揮させ、多様な資質・能力を高めてきたものと思います。また、行事に取り組むことを通じて、クラスの一体感を高めたり、ときには、ギクシャクしているクラスの間関係の円滑化を図ったりしているのではないのでしょうか。

#### いつもとは違う秋に

しかし、今年は学校長期休業による授業時間不足を補い、感染の拡大を防止するために、多くの行事が中止や規模の縮小を余儀なくされています。

また、「新しい生活様式」で周囲とのコミュニケーションが制限され、夏休みが短縮された地域もあります。それにより、子供たちにも多くのストレスが蓄積され、クラスに落ち着きがなくなってきているところもあるのではないかと思います。

#### 視点を変える

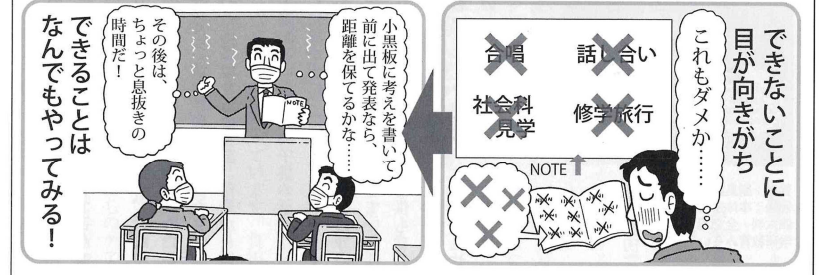
このような厳しい状況の今。先生方はついつい「コロナ禍で〇〇ができない」→「子供たちもがっかりしている」→「子供たちに申し訳ない」→「子供たちがかわいそうでこれまでのようには徹底した指導はしづらい」→「学級が落ち着かない」→「うまくいかないことが多く、気持ちが落ち込む。しかも、忙しさはいつも以上」。そのような負の連鎖に陥ってしまいがちです。

しかし、できないことにこだわっていても状況が好転することはありません。「〇〇がないからできない」という考え方から「〇〇はないけれど、□□はある。だから□□を使ってできることでベストを尽くす」というように、自分の近くのリソース (使えるもの) に目を向け、それを現状に対して有効活用する、という方向に捉え直しをする (リフレーミング) ということが大切です。

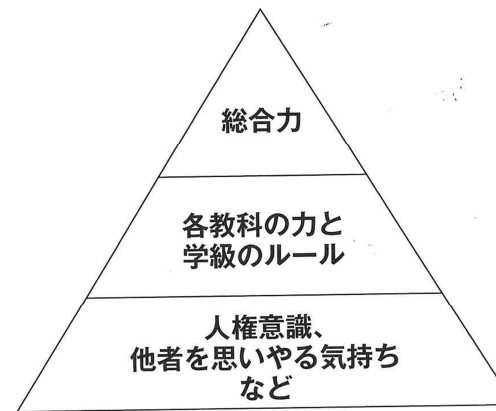
「できない、できない」とネガティブな気持ちで行う授業よりも前向きな気持ちで積極的に取り組む授業の方が、教師も楽しいはずですし、子供たちにとっても楽しい授業になるのではないのでしょうか。

実現することは簡単ではありません。でも、前向きな取組なら、やりがいを感じる事ができるでしょう。そして取組が成果を上げれば、教師としての自信につながります。

## 授業を捉え直す (リフレーミング)



### つけたい力を考える視点



つけたい力を3層で考える

こうした捉え直しの第一歩は、子供たちにつけたい力 (学校目標や学級目標)、先生自身の思い、子供たちの現状などを再確認するところから始めます。つけたい力のためにどのリソースを使って何をすると良いのかを考えていきます。その際には、子供たちにつけたい力を次のような3層のピラミッドで考え、具体的な実践を構想していきます。

一番下の層は、人権意識。例えば、コロナに感染した子などを責めないということも含めた、他者を思いやる気持ちを醸成することです。

その上に位置づくのは、各教科の力や学級のルール、クラス内の子供同士のコミュニケーションなどです。

それらを土台として、一番上に総合力、これは、教科横断的な力や、他人とコミュニケーションを取る力や、

社会と連携して学ぶ力、子供の自律や自主的に行動する力などを駆使して、様々な課題を解決していく力となります。

このピラミッドを意識しながら、利用できるリソースを有効活用し、子供たちにつけたい力がつき、子供たちが積極的に学びに向かっていきたくなるような学習活動を作り上げていきます。

### 判断や指導が甘くなりがち

今の時期に様々な学習活動を行う中では、「どうしても判断や指導が甘くなりがちである」ということは常に意識しておくべきでしょう。

例えば、実施できない行事が多い中で、実施することにした行事の場合、「この行事だけはなんとか実施してあげたい」というような気持ちになってしまうのは、やむを得ないのかもしれませんが。特に、周りの学校がすでに実施済みの行事に対して、「自分のところだけ中止にする」という選択は容易ではありません。本来であれば、中止もやむ無しの場合でも、「せめてこれは実施してあげたい」という気持ちが判断を難しくすることも多いでしょう。

子供たちへの指導についても同様です。本来であれば春先の学級に緊張感がある時期に徹底しておくはずの学習規律指導や、校外学習におけるルール等の徹底などについて、今年特有の事情から十分にできなかったことや、様々なことで子供たちに我慢を強いてきているという負い目から、厳しく指導することができずきいてしまっていることもあるようです。

そうした状態のまま校外学習に出ると、訪問先でのトラブルや移動中の事故などにつながりかねません。

時間的にも気持ちの面でも徹底した指導がしにくい状況だと思いますが、そうした判断をしがちだということを意識して、指導を見直す必要があります。

### コミュニケーションの円滑化を図る

感染拡大防止のために、日常のコミュニケーションに制限がかけられていることも多く、クラス内の人間関係に悩む子も多いようです。

毎年、新年度スタート当初には、クラス内のコミュニケーション円滑化のためにアクティビティーを行う方が多いのではないかと思います。しかし今年は、友達との距離を縮めにくい状況がずっと続いていることに加えて、クラスの間関係円滑化に重要な役割を果たしていた様々な行事も中止、縮小されています。ですから、年度スタートの時期以外にも、教師が意図して仲間づくり活動を行うことが必要です。

その際、子供の対人関係について、教師の認識と実態とがかけ離れていないかを確認しておくことで最も効果が期待できる活動を選択、実施することができます。



### 『ダンドリ仕事術』 村上仁志 著 学研プラス

小学校学級担任の1年間の業務のなかで、若手教員がつまずきそうな事項を抽出。段取りよく先回りして進めることで、スムーズな学級経営を行う方法を伝授。  
トラブルの原因と予防法、そして対応法も紹介。



### 第3回教研推進委員会＝

10月 5日(月)に第3回教研推進委員会を開催しましたので内容について報告します。

#### 1. 協議

(1) 一日教研(8/5)の反省(出席:81/85人)

○各校からの反省・意見から(抜粋)

##### ①期日

- ・この期日が適当だと思う。
- ・午前の部会と午後の部会があったので、どちらかに統一したほうが良かった。(同一日程なら校内研修や部活ができるので)

##### ②内容

- ・校内研の中でそれぞれの部会の報告をした。報告をしあうことで他の部会の取組が分かり情報を共有することができた。
- ・各部会の計画通り充実した内容だった。
- ・講師を招聘しての研修を予定していたが、小学校の行事と重なったということで当日参加できない部員があり、参加者が少なく残念だった。講師にも申し訳なかった。日程の確認をしっかりしてほしかった。

##### ③会場(各部会)

特になし

##### ④来年度に向けて

- ・今年はコロナで県外からの講師を呼ぶことは心配があったけれど、「講演を聞き、質疑応答の形」ならリモート?も可能だったのではないかと。今後は講演の形も考えていけばいいと思う。
- ・新型コロナウイルスの影響が残っていた場合の対応等は、現段階で考えておいた方がよいのではないか。

(2) 2021(令和3)年度 第71次土佐清水市教育研究集会一日教研日程について

①期日: 2021年 8月 4日(水) 予定 \*調整中

②会場: 中央公民館

③講師: 内田 良准教授(名古屋大学大学院教育発達科学研究科) \*内諾済み

#### 2. その他

(1) 半日教研: 11月 4日(水) 13:45~

各部会「公開授業」を中心に計画。

※「旅費」は、「学校配当旅費」とする。

(2) 第4回教研推進委員会

・期日: 12月 7日(月)

・会場: 教育センター

・内容: ア 半日教研総括

イ 2021(令和3)年度教研(組織、一日、半日)の日程、部会構成、組織等について

#### ＝教研関係提出物について＝

##### ○各部会

- \* 部会決算書提出 12月24日(木)
- \* 事業実績報告書 1月29日(金)
- \* 総括教研部会報書 1月29日(金)
- \* 研究集録原稿 1月29日(金)

##### ○研究協力校

- \* 研究集録原稿 1月29日(金)
- \* 決算書・実績報告書 2月17日(水)

